

ibstpi 高等教育質保証学会 第3回大会
セッション1: 高等教育の先進的動向と質保証
2013. 8. 24 @ 京都大学

Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

**インターネット型大学院における
質保証の事例**

JSET **JSISH** **JSISE**

熊本大学大学院
教授システム学専攻
鈴木 克明

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>
ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

ibstpi 理事・日本教育メディア学会第7期会長・日本教育工学会理事・教育システム情報学会理事・日本医療教授システム学会(JSISH)理事・日本eラーニングコンソシアム名誉会員

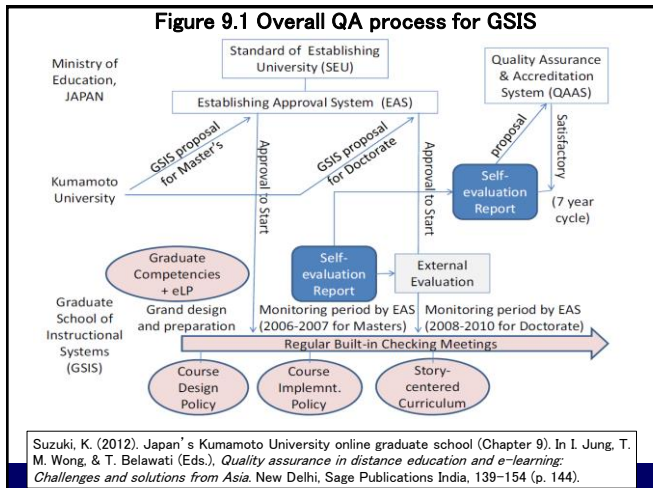
eラーニング専門家をeラーニングで養成! 熊本大学大学院 教授システム学専攻

本日のメッセージ
熊本大学 鈴木克明

Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

インターネット型の大学院でeラーニングの専門家を養成して8年目になる熊本大学における事例を紹介する。インターネット型だからこそ質保障はしやすい。何故ならば、すべてが記録・蓄積され、密室がないから。教育設計学(Instructional Design: ID)を志す社会人受講生の目は厳しいので、「紺屋の白袴」と揶揄されないようにIDの最先端を自専攻の設計と運用に活用してきた。ストーリー型カリキュラムの導入はその一例であり、今後の高等教育の一つの方向性を示唆する教育方法のパラダイム変革にならないだろうか? IDの手法をID以外を教育内容とするすべての領域の高等教育で活用することが質保障を促進するだろう。講義形式と定期試験に依存せず、自分で学ぶ場としての大学に戻ることを実現するために提案した「大学におけるICT利用のサンドイッチモデル」を紹介して、高等教育における質保障の専門家の意見を求めたい。

eラーニング専門家をeラーニングで養成! 熊本大学大学院 教授システム学専攻

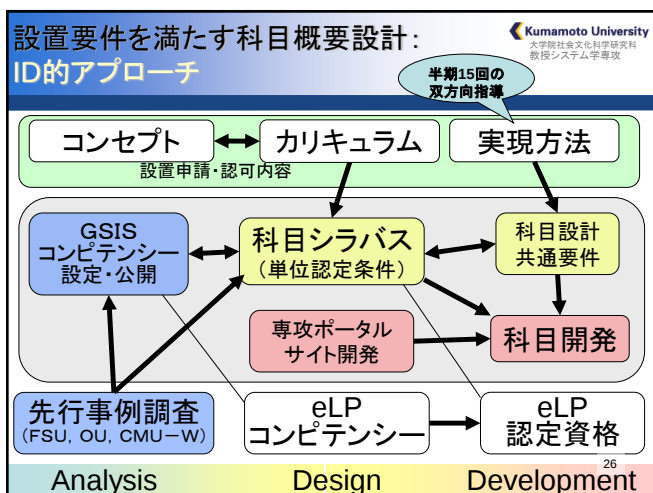


熊本大学大学院教授システム学専攻
eラーニングによるeラーニング専門家養成大学院
遠隔非同期中心のeラーニングコンテンツ

Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

教材設計
マニュアル

eラーニング専門家をeラーニングで養成! 熊本大学大学院 教授システム学専攻



熊本大学大学院 社会文化科学研究科 教授システム学専攻
Graduate school of instructional systems

お知らせ ご挨拶 コンセプト 教員 科目 入試 教員・学生の声 FAQ

コンセプト
Concept

詳細は・・・
<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>

IDを中心とした「4つのI」

修了で身につく「コンピテンシー」

取得可能な「eLP資格」

全国から受講可能な「インターネット大学院」

キャンパスライフ

公開科目

IDポータル

研究活動

大学院
教育改革
支援プログラム

修了で身につく「コンピテンシー」

本専攻博士前期修士課程を修了すると、以下のコンピテンシー(職務遂行能力)の基礎が身に付きます。

コア:必修科目の単位を取得することで身に付くコンピテンシー

1. 教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。
2. さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。
3. コア:必修科目(企画・デザイン)のeラーニングの企画・デザイン・制作ができる。

GSISシラバスガイドライン

 Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

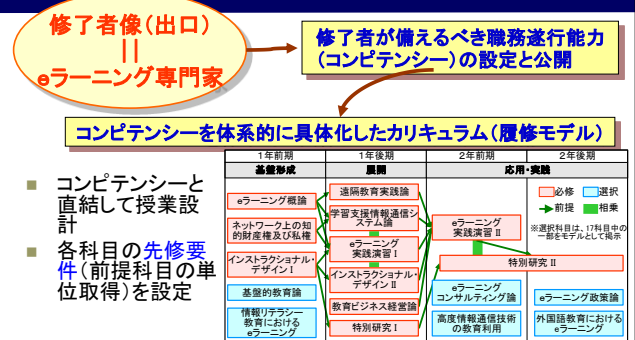
1. 15回の双方向性を持った学習記録を残すように仕組む(例:小テスト、クイズ、小レポート、練習問題への回答)
2. 成績評価は複数のレポート・作品+学習記録(15回分)を組み合わせ、各項目で6割以上を単位取得最低条件とする
3. レポート・作品はコンピテンシーと直結させる
4. 学習記録(15回分)の μ 切は毎週設定せずに、数回分まとめ学習を可能にする
5. 非同期科目では日時を指定した同期型の一斉指導は半期で2回程度まで限定する(残りは非同期、または個別指導)
6. レポート・作品(または学習記録)に受講者相互の評価(改善への意見を含む)活動を取り入れる(仮提出→相互コメント→修正・本提出の基本的な流れ)
7. 科目の導入あるいは複数の課題ごと(15回の学習ごと)に科目担当者によるイントロビデオを作成する(顔を見せ動機づけをする目的に限定した短編とし、情報提供は書面を基本とする)

出典：北村士朗・鈴木克明ら(2007)「eラーニング専門家養成のためのeラーニング大学院における質保証への取組：熊本大学大学院教授システム学専攻の事例」『メディア教育研究』第3巻2号(特集：e-Learningにおける高等教育の質保証への取組み) 25-35 (表2: p. 28)

修了者像に基づく課程設計
— 出口からの質保証 —



Kumamoto University



熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

8 / 38

産学連携による
人材需要への適合性確保



Kumamoto University

- 日本イーラーニングコンソシアム (eLC) との連携
 - eラーニング業界団体であるeLCの正会員 (国立大学初)
 - 「eラーニングプロフェッショナル (eLP) 資格認定制度」 (eLC策定)
 - 策定作業に本専攻として協力
 - コンピテンシーや教育内容と認定資格の整合を考慮
 - 修了と同時に複数の認定資格を取得可能 (相互認定協定)
 - 「eLPベーシック」、「eLPエキスパート」、「eLPラーニングデザイナー」 (必修科目のみで取得可能)
 - 「eLPマネージャー」、「eLPコンサルタント」、「eLPコンテンツクリエーター」、「eLP SCORM技術者」 (一部選択科目が必要)

熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

9 / 38

学習の質・量確保と
厳格で一貫した成績評価



Kumamoto University

- **eラーニングの特長を活かした学習の質・量の確保(単位の実質化)**
学習進捗状況(専攻ポータル)



- 学生・教員間の双方向のやりとり及び学生間相互コメントを含む学習活動の「見える化」→ 協働学習環境の実現
 - 15回の各授業で「タスク」を課し、数回の「課題」でコンピテンシー確認
- 予め示した評価基準で厳格な単位認定
- 全15回分の「タスク」の修了と、「課題」のすべてが合格点（6割以上）
- 組織的な研究指導：学生ごとに主担当教員1名と副担当教員2名を配置

熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

10 / 38

内蔵型FD・評価による 教育の組織的質保証



Kumamoto University

- ## □ デザイン原則の共有化

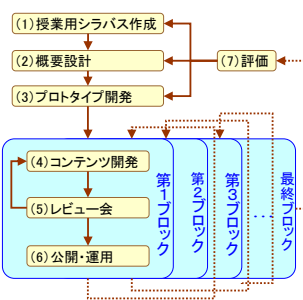
- 教育設計の専門家が全科目のシラバス、教材、評価方法等を点検・指導

- ## □ レビュー会の定例化

- 教員・授業補助者・教材作成者が一堂に会し公開前に教育内容の相互点検等を行う

- ## □ 学習モニタリング

- 月別学生別⇒教員会議にて報告



本専攻の科目開発プロセス
(内蔵型FD) 11 / 38

熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

11 / 38

完成したばかりなのに
もう変えるの?!



Kumamoto University

- ## □ 2年間走りながら生み出した成果

- 「4つのI」を軸とした体系的カリキュラム
- インターネット大学院の学習支援環境
- 「大学院教育の実質化」に対応した運営体制

第1期生の修了(2008年3月)

eラーニングにおける 教授方法の更なる改善

博士後期課程の開始
(2008年4月)

熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

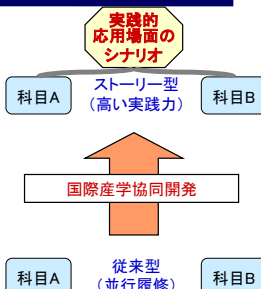
41 / 69

平成19年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム
IT時代の教育イノベーター育成

**①国際産学共同開発による
「ストーリー型カリキュラム」**


Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

- 先進性を更に進めるカリキュラム改革
- 複数科目共通の実践的応用場面のシナリオを作成
 - 並行履修する複数科目をシナリオに関連付け → 統合的な教育課程を導入
 - ストーリー例: ある企業で集合型研修の一部をeラーニングに置換する場合
 - カーネギーメロン大学で効果は実証済
 - 我が国最初の試み
- 国際産学共同開発


The diagram illustrates the development of a story-type curriculum. At the top, a yellow hexagon labeled '実践的応用場面のシナリオ' (Practical application scenario) is connected by lines to two blue rounded rectangles labeled '科目A' and '科目B'. Below these, a large orange arrow points upwards towards a white rounded rectangle labeled '国際産学共同開発' (International industry-academia joint development). At the bottom, another set of blue rounded rectangles labeled '科目A' and '科目B' is shown, with a white rounded rectangle labeled '従来型(並行履修)' (Conventional (parallel enrollment)) positioned between them.

[3頁]

eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授システム学専攻(修士+博士課程)

①国際産学共同開発による「ストーリー型カリキュラム」

ストーリーの中で学ぶ...SCCが提供する世界

Kumamoto University

e-Learningシステム開発・販売

- 生き残る鍵 → IDに基づく高品質な製品
- 3年後の株式上場を目指すベンチャー

関連科目目録
(1年前期必修)

eラーニング概論

インストラクショナル・デザイン

ネットワーク上の知的財産権及び私権

学習支援情報通信システム論

教育ビジネス経営論

紙教材の新規開発

素材使用希望申請

既成コースの分析

画像使用許諾契約書の作成

学習のe化に関する技術調査

新事業部設立計画

三友商事株式会社

KEISERSBERG MATERIALS, INC.

Meet The Mind

迷宮探検

Ohio Recruiting Company

商標権侵害クレーム対応

出資

おはよう！(朝のニュース)

14 / 30

SCC導入による構造化 & 系列化設計
 ~1年前期の科目構成の組替え~

~2007年度~

4月 8月

ID 1 Bk1 ID 1 Bk2 ID 1 Bk3 ID 1 Bk4

E/L概論 Bk1 E/L概論 Bk2 E/L概論 Bk3 E/L概論 Bk4 E/L概論 Bk5

N/W上の知財権および秘権 Bk1 N/W上の知財権および秘権 Bk2 N/W上の知財権および秘権 Bk3, 4

学習支援情報通信システム論 Bk1 学習支援情報通信システム論 Bk2

教員ビジネス経営論 BK1 / 3

1年後期からの移行

~2008年度~

4月 8月

① E/L 概論 Bk1 ② E/L 概論 Bk2 ③ E/L 概論 Bk3 ④ ID1 ⑤ 知財 概論 Bk1 ⑥ ID1 ⑦ ID1 ⑧ ID1 ⑨ E/L 概論 Bk4 ⑩ 知財 概論 Bk2 ⑪ 知財 概論 Bk3 ⑫ 通信 シス Bk1 ⑬ 通信 シス Bk2 ⑭ 教員 経営 論 Bk1/3 ⑮ E/L 概論 Bk5

「MTM社の1社員」になり、降り注ぐ上司の指示へ「学びながら」対処！

熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻

46 / 69

②国際連携によるeポートフォリオ活用教育改善シナリズム

ポートフォリオの活用事例：最終試験



Kumamoto University

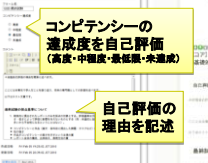
- 最終試験（レポート形式）
 - コンピテンシー達成度を自己評価し、その証拠となる作品等を紹介する要約文をまとめたもの
 - レポートの作成は 3ステップ

STEP1: 選択



予め登録されている
成果物の中から選択

STEP2: 省察



コンピテンシーの
達成度を自己評価
(高度・中程度・最低限・未達成)

自己評価の
理由を記述

STEP3: 公開



- 希望者を募り、本年度修了生を中心
に利用を開始

16 / 30

**質保証の5レベル=いらつきのなさ+うそのなさ
+わかりやすさ+学びやすさ+学びたさ**

ラーニングの質	達成指標	主なID技法
レベル3: 学びたさ (魅力の要件)	継続的学習意欲、没入感、十分な ことまで、将来へのつながり、 自己選択・自己責任、好みとこだわり、 ブランド、誇り	動機づけ設計法 (ARCSモデル) 成人学習の原則
レベル2: 学びやすさ (学習効果の 要件)	学習課題の特性に応じた学習環境、 学習者のニーズにマッチした学習支 援要素、共同体の学びあひ作用、自己 管理学習、応答的学習	学習支援設計法 (9教授事例) 構造化・系列化技法
レベル1: わかりやすさ (情報デザイン の要件)	操作性・ユーザビリティ・ナビゲー ション・レイアウト、テクニカルラ イティング	プロトタイプング 形成的評価技法
レベル0: うそのなさ (SMEの要件)	内容の正確さ、取り扱い範囲の妥当 性、解釈の妥当性、多義性の提示、 情報の新鮮さ、根拠・確からしさの 提示、適正な著作権処理	ニーズ分析法 職務分析法 内容分析法
レベル-1: いらつきのなさ (精神衛生上の 要件)	アクセス環境、充分な回線速度、 IT環境のレベルに応じた代替利用 方法、サービスの安定度、安心感	学習環境分析 メディア選択技法

鈴木克明(2006.11)IDの視点で大学教育をデザインする鳥瞰図：ラーニングの質保証レイヤーモデルの構築(日本教育工学会第22回講演論文集[337-338])

[illegible]